

## 令和5年度 園の自己評価

A…できている B…おおむねできている C…一部改善を要する D…改善を要する

1. 保育理念、保育観		
1	園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している	A
2	園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	A
3	定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている	A
4	全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている	A
<p>年度の始めには、園長から園の方針について説明がされ、全職員が共通理解をした上で、保育にあたることができるよう心掛けている。</p> <p>コロナが5類に移行され、保育の内容、行事などは、ほぼ、コロナ前と同等レベルに戻っている。一方で、「withコロナ」の生活の中で見出した、新しいやり方や見直しと合わせながら、新しい時代に合った保育を考える一年でもあった。</p> <p>保育者は、今年度も自分の保育についての自己評価チェックも行い、評価のよくなかった項目に対しては、そのことを意識しながら保育を行うことができている。</p>		
2. 保育計画、保育実践と振り返り		
1	全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている	A
2	子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している	A
3	配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている	A
4	保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	A
<p>クラス計画は、クラスリーダーが主に作成するが、クラス内ミーティングや乳幼児ミーティング等で、その内容について話し合ったり、反省点の見直しが行われている。</p> <p>計画については、毎月、計画と保育を振り返り、反省と考察を行って、次月につなげる流れができている。</p> <p>発達の個人差も大きい中、一人一人にあった支援は本当に難しいものだが、園内でのケース会議のほか、幼児言語教室、児童発達支援施設や大学講師などといった外部の機関とつながりを持ちながら、支援にかかる関係者が連携をし合って保育をする形がとれるようになっている。</p>		
3. 環境、安全		
1	一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
2	園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	A
3	職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている	A
4	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A
<p>園の保育方針であるモンテッソーリ教育の環境構成については、子どもの観察をしながら、子どもの興味や発達に合わせた環境が常に用意されている。</p> <p>安全管理においては副園長を中心に行われており、保育環境や建物内外の修繕など、保育者からの要望に素早く対応し、改善が計られている。</p>		
4. 食育		
1	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	A
2	栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている	B
3	食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A
4	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A

コロナが5類になり、クッキング活動も再開されたが、その時々で流行する感染症もあり、まだ慎重な姿勢をとりながらの活動となっている。

収穫体験をした野菜は、クッキングだけでなく、給食で味わう形も多かったが、栄養士や調理師の丁寧で繊細な調理や味付けにより、野菜もよく食べ、バランスのよい食事ができるようになっている。

食物アレルギーも多種に渡り、ひとり一人に合わせたものの提供をしなくてはならないので、大変な部分でもある。報道などで取り上げられるアレルギー関連の事故などを、ヒヤリハットの事例として取り上げ、事故防止についての話し合いを行っている。

## 5. 職員構成、役割分担、研修

1	職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている	A
2	園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している	A
3	各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A

保育者の専門性の向上を図るために、キャリアアップ研修に積極的に参加している。

受講時間は長いが、職員相互の協力体制の中、計画的にインターネットを通してリモートで行っている。

コロナ禍で主流になったもズーム参加による研修も、研修の在り方として定着しつつある。

園務分掌として、各職員の個性や得意なことを生かしながら、係や担当を決め、園の運営に一人ひとりの力が発揮できるように配慮をしている。

## 6. 保護者支援、子育て支援

1	保護者に対し、園の保育保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	A
2	保護者の状況など、個人情報の漏えいに気をつけている	A
3	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている	A
4	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	B

今年度は、保育参観の一環として、「親子散歩の会」を催し、日頃の保育や子どもの姿がわかる機会を、いつもとは別の角度から発信することができた。コロナが5類になったことで、これまでなかなか見ることのできなかった保育の様子を、保護者へ公開する機会を多く得ることができた。

月一度の「子育てサロン」は、コロナが5類になったことで、子育て中の母親、もしくは親子とて、以前のように気軽に利用できる場となった。参加申し込み人数も毎回多く、このような場が求められていることが伺えた。サロンの催しも、単なる交流の場だけでなく、子育て中の母親の助けになれるよう、講師や行事を熟慮した。

## 7. 小学校や地域社会との連携

1	定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている	B
2	町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	B
3	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている	A

地域の小学校が幼保園と連携をはかる参観会や情報交換会を開催して下さり、接続の連携が前進している。

縦のつながりができたので、子ども園、保育園、幼稚園の横のつながりができることが理想だが、小学校を中心にして、学区の園が一時に会することだけでもよい交流になっている。

コロナが5類になったことで、地域の老人ホームへの慰問が再開できて喜ばれた。直接の触れ合いや関わり合いは、ビデオレターでは届られない人の温もりを再認識できるよい機会となれた。

実習生の受け入れには前向きでいるが、今年度は実習を希望する学生がなく残念でもあった。